令和７年度救急医療生涯教育研修会抄録
演題：「基幹病院における医療安全活動の実際」
名古屋掖済会病院　医療安全対策室　太田英之

名古屋掖済会病院は「断らない救急」を掲げ、地域の中核病院として高度かつ緊急性の高い医療を提供している。救急医療が盛んなこともあり、予定入院患者数よりも緊急入院患者数が多く、非定型的な経過をたどる症例や、予期せぬ事態になる症例もしばしば存在する。

当院では、医療安全対策室を中心に、PDCA サイクルに基づいた組織的な安全活動を展開しており、転倒・転落、肺血栓塞栓症、抗菌薬適正使用などの指標を用いた「医療の質可視化プロジェクト」にも参画している。院内では多職種連携によるインシデント分析や改善策の共有、研修会や講演会、M&M カンファレンスなどを通じて、医療安全文化の醸成に努めている。一方で、報告文化の定着や職種間の意識差、改善策の実効性などの課題も残されており、トップダウンとボトムアップの両面からのアプローチが求められる。医療安全はマニュアル遵守にとどまらず、現場の声を活かした継続的な改善と文化の構築が不可欠であると実感している。

今回、実際の事例も紹介しながら当院における医療安全活動の実際について述べる。